

ウィリアム・F・マーチン 元米国エネルギー省副長官 御略歴

- 米国レーガン政権下で国家安全保障委員会事務局長、エネルギー省副長官を歴任。ブッシュ政権・オバマ政権下でエネルギー省原子力諮問委員会（NEAC）の委員長を 10 年間務め、現在は同諮問委員会の国際委員会の座長。
- エネルギー省副長官として、米国議会において、日米原子力協定を推進する立場から、レーガン政権で最初の証言を行い、1983 年 11 月のレーガン－中曽根合意をもたらした日米エネルギーワーキンググループの座長を務めた。レーガン大統領に随行して 1983 年に来日し、中曽根－レーガン会談に参加。
- 2008 年には、NEAC の委員長として、原子力エネルギーや世界の原子力安全向上のための技術ロードマップに対する超党派的なアプローチを提供するため、21 世紀のための原子力エネルギーに関する政策と技術をレポートにまとめた（エネルギー省）。2011 年には、NEAC のメンバーであるバート・リヒター氏（ノーベル物理学賞受賞者）とともに、原子力の国際問題についてフーバー研究所から出されたレポートの執筆に協力した。
- 2007 年には、国際原子力機関（IAEA）のムハンマド・エルバラダイ事務局長（当時）より、国際原子力の将来を評価する 20/20 プロジェクトのコーディネーターを任命された。
- 1974 年から 1980 年、第二次石油危機の間に、国際エネルギー機関（IEA）の事務局長特別補佐として、代替エネルギー戦略に関する MIT のワークショップのプログラムオフィサーを務めた。
- エネルギーセキュリティに関する著書 3 冊が和訳されている。
Energy: Global Prospects, 1985-2000 (MIT Press, 1976),
Energy Security: Report to the President of the United States (Department of Energy, 1987)
Maintaining Energy Security in a Global Context (Trilateral Commission, 1997)
- ペンシルベニア大学ウォートン・スクール卒業(経済学士)、マサチューセッツ工科大学科学修士号取得。また、コフィ・アナン国連事務総長（当時）の任命により、国連平和大学理事会の会長を務めた。